

観点別評価の方法と評価の基準例(例1) 科目名:生物基礎

使用教科書 数研出版『改訂版 新編 生物基礎』

章	節	評価の観点	評価の内容	評価の方法	評価基準		
					A	B	C
第1章 生物の 特徴	第1節 生物の 多様性 と共通 性	知識・ 技能	<ul style="list-style-type: none"> 生物が「細胞からできている」、「遺伝情報としてDNAをもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「この節の目標の振り返り」①, ② (p.33)に答えさせる。 	キーワードを概ね正しく用いて説明することができる。	一部誤りがあるがキーワードを用いて説明できる。	1つもキーワードを正しく用いて説明できていない。
				<ul style="list-style-type: none"> 章末問題(p.56,57)の用語チェック1~8, 演習問題1,2に答えさせる。 	正しく回答できる。	一部誤りがあるが概ね正しく回答できる。	正しく回答できているものがほとんどない。
			<ul style="list-style-type: none"> 観察①真核細胞と原核細胞の観察」(p.34,35)を行い,さまざまな生物に,細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を観察するのに適したプレパラートを作成させる。 目的とする観察対象を観察させる。 	実験操作を適切に行うことができる。	一部誤りがあるが実験操作を概ね適切に行うことができる。	実験操作を適切に行える場面がほとんど見られない。
				<ul style="list-style-type: none"> 細胞の大きさや形態に着目して比較させ, レポートにまとめさせる。 	実験の目的を踏まえたレポートの書き方(スケッチなどの書き方も含む)ができている。	一部誤りがあるが実験の目的を踏まえたレポートの書き方(スケッチなどの書き方も含む)ができている。	実験の目的を踏まえたレポートの書き方(スケッチなどの書き方も含む)ができている部分がほとんど見られない。
			<ul style="list-style-type: none"> 観察①真核細胞と原核細胞の観察」(p.34,35)を行い,原核細胞と真核細胞の違いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を観察するのに適したプレパラートを作成させる。 目的とする観察対象を観察させる。 	実験操作を適切に行うことができる。	一部誤りがあるが実験操作を概ね適切に行うことができる。	実験操作を適切に行える場面がほとんど見られない。
				<ul style="list-style-type: none"> 細胞の大きさや形態などの特徴をレポートにまとめさせる。 	実験の目的を踏まえたレポートの書き方(スケッチなどの書き方も含む)ができている。	一部誤りがあるが実験の目的を踏まえたレポートの書き方(スケッチなどの書き方も含む)ができている。	実験の目的を踏まえたレポートの書き方(スケッチなどの書き方も含む)ができている部分がほとんど見られない。
		思考・ 判断・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな哺乳類の比較に基づいて,生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき,説明できる。 中学校で得た知識などを活用して,哺乳類に見られる共通性について説明できる。 系統樹を正しく読み取ることができる。 さまざまな生物の比較に基づいて,すべての生物に見られる特徴について考え,共通性を見いだすことができる。 生物と生物でないものを見分け,その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」(p.26)について考えさせ,記述等で表現させる。 	生物が生息環境に適した形態や機能を持っていることを説明することができる。	一部不十分どころが見られるが概ね生物が生息環境に適した形態や機能を持っていることを説明することができる。	生物が生息環境に適した形態や機能を持っていることを説明できている部分が見られない。
				<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」(p.28)について考えさせ,記述等で表現させる。 	哺乳類に見られる共通性について説明することができる。	一部不十分どころが見られるが哺乳類に見られる共通性について説明することができる。	哺乳類に見られる共通性について説明できている部分が見られない。
				<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」(p.29)について考えさせ,答えさせる。 	3つの特徴をすべて正しく判断することができる。	1つ以上の特徴を正しく判断することができる。	1つも特徴を正しく判断できない。
				<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」(p.30)について考えさせ,記述等で表現させる。 	すべての生物に共通する特徴として細胞について言及することができる。	すべての生物に共通する特徴として膜や区切りといった細胞ととれる表現が見られる。	すべての生物に共通する特徴として細胞ととれる表現が見られない。
		<ul style="list-style-type: none"> 「考えてみよう」(p.31)について考えさせ,記述等で説明させる。 	「生物の共通性」をもとに生物と生物でないものを判断することができる,理由を説明することができる。	「生物の共通性」をもとに生物と生物でないものを判断することができるが,理由を説明することができない。	「生物の共通性」をもとに生物と生物でないものを判断することができない。		

章	節	評価の観点	評価の内容	評価の方法	評価基準		
					A	B	C
		主体的に学習に取り組む態度	・生物の多様性と共通性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	・「Quest」(p.21,22,23,24),「考えてみよう」(p.25)などのそれぞれの発問に対する生徒の取り組み。	発問に対して自分の考えを表現することができた。	一部できていないものもあるが発問に対して自分の考えを表現することができた。	発問に対して自分の考えを表現できたものがほとんどなかった。
	・学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。		学習内容をノート・レポートにまとめたり、学習内容についてまとめたことを発表することができた。	一部不十分ではあるが学習内容をノート・レポートにまとめたり、学習内容についてまとめたことを発表することができた。	学習内容をノート・レポートにまとめたり、学習内容についてまとめたことを発表するところまで至れなかった。		
	・単元学習を通して自らの学習を調整しようとする。		この単元での学習内容を振り返り、次の単元での学習の改善点を記述等で表現させる。	学習の改善点を具体的にあげることができた。	一部抽象的な表現が見られるが学習の改善点をあげることができた。	学習の改善点をあげることができなかった。	

観点別評価の方法と評価の基準例(例2) 科目名:生物基礎

使用教科書 数研出版『改訂版 新編 生物基礎』

章	節	評価の観点	評価の内容	評価の方法	評価基準		
					A	B	C
第1章 生物の 特徴	第1節 生物の 多様性 と共通 性	知識・ 技能	・生物が「細胞からできている」, 「遺伝情報としてDNAをもっている」, 「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。	・「この節の目標の振り返り」①, ②(p.33)に答えさせる。 ・章末問題(p.56,57)の用語チェック1~8, 演習問題1,2に答えさせる。	生物に見られる共通の特徴や共通性が生じている理由を理解している。 章末問題の用語チェック1~8を理解し, 演習問題1,2のすべてに解答できる。	生物の共通性やそれが生じる理由のいくつかを理解している。 章末問題の用語チェック1~8をおおむね理解し, 演習問題1,2の6割程度は解答できる。	生物の共通性とそれが生じる理由について, ほとんど理解できていない。 章末問題の用語チェック1~8をあまり理解しておらず, 演習問題1,2は解けない設問が多い。
			・観察①「真核細胞と原核細胞の観察」(p.34,35)を行い, さまざまな生物に, 細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。	・細胞を観察するのに適したプレパラートを作成させる。 ・目的とする対象物を観察させる。 ・細胞の大きさや形態に着目して比較させ, レポートにまとめさせる。	観察①を手順に従って実施し, さまざまな細胞の観察ができる技能を有する。	観察①を手順に従って概ね正確に実施することができ, いくつかの指導をすれば自分で細胞の観察ができる。	観察①を手順通り実施できず, 顕微鏡操作も未熟で, かなりの指導をしないと, 細胞の観察ができない。
			・観察①「真核細胞と原核細胞の観察」(p.34,35)を行い, 原核細胞と真核細胞の違いを知る。	・細胞を観察するのに適したプレパラートを作成させる。 ・目的とする対象物を観察させる。 ・細胞の大きさや形態などの特徴をレポートにまとめさせる。	観察②を手順に従って実施し, 真核細胞と原核細胞の大きさの違いなども自分で把握できる技能を有する。	観察②を手順に従って実施し, 指摘すれば真核細胞と原核細胞の大きさの違いなどを把握できる技能を有する。	観察②を手順通り実施できず, 真核細胞と原核細胞の大きさの違いについて, 十分見極めることができない。
			・さまざまな哺乳類の比較に基づいて, 生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき, 説明できる。	・「Quest」(p.26)について考えさせ, 説明させる。	いくつかの哺乳類について, 形態などの特徴と生息環境を考え, 生物が環境に適した特徴をもつことを説明できる。	いくつかの哺乳類について, 形態などの特徴と生息環境の考えることはできるが, 特徴と環境を結びつけて説明することはできない。	哺乳類の形態などの特徴や生息環境を考えることが十分でなく, それを結びつけて考えるにいたらない。
			・中学校で得た知識などを活用して, 哺乳類に見られる共通性について説明できる。 ・系統樹を正しく読み取ることができる。	・「Quest」(p.28)について考えさせ, 説明させる。 ・「Quest」(p.29)について考えさせ, 説明させる。	中学校での学習内容を活用して, 哺乳類の共通性について正確に説明できる。 脊椎動物の系統樹について, 進化の道筋を踏まえて判断し, Questに正確に答えることができる。	中学校での学習内容を活用して, 哺乳類の共通性についていくつかは説明できる。 脊椎動物の系統樹から進化の道筋を考えることができ, Questにある程度答えることができる。	中学での理解不足もあり, 哺乳類の共通性について, 説明できない。 現生の脊椎動物を進化の過程を考えて結びつけることが困難で, Questに答えることができない。
			・さまざまな生物の比較に基づいて, すべての生物に見られる特徴について考え, 共通性を見いだすことができる。 ・生物と生物でないものを見分け, その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。	・「Quest」(p.30)について考えさせ, 説明させる。 ・「考えてみよう」(p.31)について考えさせ, 説明させる。	図3の写真や生物名からそれぞれの生物の特徴を推測でき, その共通性を見いだして説明できる。 これまでの学習を踏まえ, 木の机や椅子, ロボットが生物でないことを見だし, 理由をつけて説明できる。	図3の一部の生物についてその特徴が十分にはつかめないうが, 共通の特徴にはある程度答えることができる。 これまでの学習を踏まえ, 木の机や椅子, ロボットが生物でないことはわかるが, 理由をつけて説明するにはいらない。	図3を見ても「丸い」程度の共通性しか見いだせず, それ以上の生物の特徴まではつかむことができない。 「細胞のできている」ことから木でできた机や椅子, 「エネルギーの利用する」ことからロボットが生物ではないことを判断し説明できない。

章	節	評価の観点	評価の内容	評価の方法	評価基準		
					A	B	C
		主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」(p.26,28,29,30), 「考えてみよう」(p.31)などの発問に対する生徒の様子を観察する。 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」, 「考えてみよう」などの発問に真面目に取り組み, 積極的に説明しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」, 「考えてみよう」などの発問に取り組む, 指名すれば説明しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Quest」, 「考えてみよう」などの発問に取り組む, 説明しようとする意欲が見られない。
					<ul style="list-style-type: none"> 学習内容をノート・レポートにまとめ, 必要に応じて発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容はノート・レポートの形である程度まとめられているが, それを元に発表することは十分にはできない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が整理されておらず, 発表まで持っていくことができない。